巻頭言

防災学術連携体と国際的な動向

京都大学防災研究所 教授 京都大学大学院総合生存学館 学館長(併任)

寶 馨

2017年4月より会長を拝命しました寶です。会員の皆様にはこれまで同様またそれ以上に積極的に学会活動に御参画賜りますようよろしくお願い申し上げます。

会長就任以来,まず,4月15日には熊本地震1周年報告会に出席して参りました。これは熊本県のイベントでもありましたが,内閣府日本学術会議防災減災・災害復興に関する学術連携委員会,防災学術連携体(防災に関わる55学会のネットワーク)も共催して行われました。日本自然災害学会は,防災学術連携体の設立当初からのメンバーでもあり,こうしたイベントにおいても存在感を示す必要もありますことから,高橋和雄前会長とも御相談し,九州大学の久保田哲也先生に「熊本地震による阿蘇地域の山地災害の特徴と今後の対策について」というご発表(ポスター)をお願いするとともに,学会事務局の氷室智子さんには,この報告会の事務のお手伝いをしていただくこととしました。また,この報告会の起案者のお一人でもあられた高橋前会長には,防災学術連携体のご配慮により,冒頭のご挨拶をしていただく機会をいただきました。

この防災学術連携体は、2015年3月の国連防災世界会議(仙台)での議論を踏まえ、日本学術会議において2011年5月から活動をしていた「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」のメンバーを中心に企画され組織されたもので、防災減災・災害復興に関する学会ネットワークとして2016年1月9日に設立されたものです。現在55の学協会(地球惑星科学連合を含む)が加入しています。連携体のこれまでの活動や研究集会等における発表情報は、連携体のウェブサイトhttp://janet-dr.com/index.html に掲載されているので、是非、御参照いただき、参考にしていただければ幸いです。

5月18~19日には、四川大学で行われました HELP (High-level Experts and Leaders Panel on Water and Disasters) に参加しました。これは、水災害系の世界をリードする専門家の集会ですが、今回は特に、アジアから世界への発信を目指したものです。日本からは国土交通省関係者、ユネスコセンターの水災害リスクマネジメント国際センター

(ICHARM),中国、韓国、香港などからも参加者がありました。

5月29日~6月2日には、第4回斜面災害世界フォーラム(スロベニア・リュブリアナ)に参加しました。これは、2008年の第1回(東京・国連大)を皮切りに第2回(ローマ、国連食糧農業機関FAO)、第3回(中国・北京)と回を重ねてきたもので、国際斜面災害研究機構(ICL)が主催しているものです。第5回は2020年11月に京都で開催されます。

なお、今回は私は出席できませんでしたが、5月22日~26日に防災グローバル・プラットフォーム会議(メキシコ・カンクン)が開かれました。これは、国連国際防災戦略 (UNISDR) が主催し、加盟国政府、民間セクター、市民社会組織、学術研究機関等を含む関係機関が、防災に係る実務や研究の進捗・取り組みを共有する世界規模の会合です。こちらは、2007年に第1回会合が開催されて以降、過去4回(2007、2009、2011、2013年)開催され、今回(2017年)が第5回となりました。

いずれの会合においても、2015年3月の仙台防災枠組(SFDRR2015-2030)、同年秋に採択された持続可能開発目標(SDGs=Sustainable Development Goals)、気候変動に関するパリ協定を強く意識しており、こうした国際的な議論の中において災害や防災が主要テーマの一つとしてとりあげられています。

昨年から政府主導で行なわれることとなった防災推進国民大会が、今年は仙台で11月26~27日に開催されます。同時に東北大学が主催者となって、世界防災フォーラム(World Bosai Forum)が11月25~28日に行われます。その直前の11月23日~25日には Global Forum on Science and Technology for Disaster Resilience 2017(東京・日本学術会議)を開催します。

今年は、このように災害科学や防災研究にとってたいへん重要な年と位置づけられます。 日本自然災害学会は、恒例の年次学術講演会とフォーラムを9月27日~29日に新潟県長 岡市で開催致します。6月には長岡市の会議場を下見に行って参りました。駅に直結した たいへん便利なところです。皆様方のご参加をお待ちしております。